

近森病院 作業療法科

科長補佐 光永哲

概要

作業療法科の人員は1月の時点で22名、4月に2名の新人を迎え、5月・9月に計2名の退職、10月に1名法人内の異動があり12月には21名の体制となった。

人材育成を目的とした計画的な人事異動を推進し、科内の係を研究・勉強会など業務目標に沿ったものに再編成、また異動者のオリエンテーション・業務チェックリストを更新して対応した。運動器外来リハの縮小化や病床届出変更に合わせて、状況に応じた人員配置を行った。そのほか職場の腰痛対策としてノーリフティングケアの研修や病院備品の導入を進めた。

業務実績

年間総処方数は1,772件(前年1,675件)と前年に比べ97件の増加となり(図1)、月別新規処方数も月平均159件(前年平均139件)と増加となった。外来に関しては、10月より原則新規受け入れを中止したため極少数となっている。月別延べ実施件数を図2に示す。月別延べ実施件数(入院)は平均2,458件(前年平均2,173件)であった。月別延べ実施件数(外来)は平均297件(前年平均279件)となった。

疾患別リハの月別延べ総単位数を図3に示す。月平均は脳血管疾患2,452単位、運動器疾患1,043単位、廃用症候群779単位、呼吸器疾患297単位、心大血管疾患251単位、がんリハ29単位であった。いずれもコロナ禍の影響が強かった前年より増加していた。

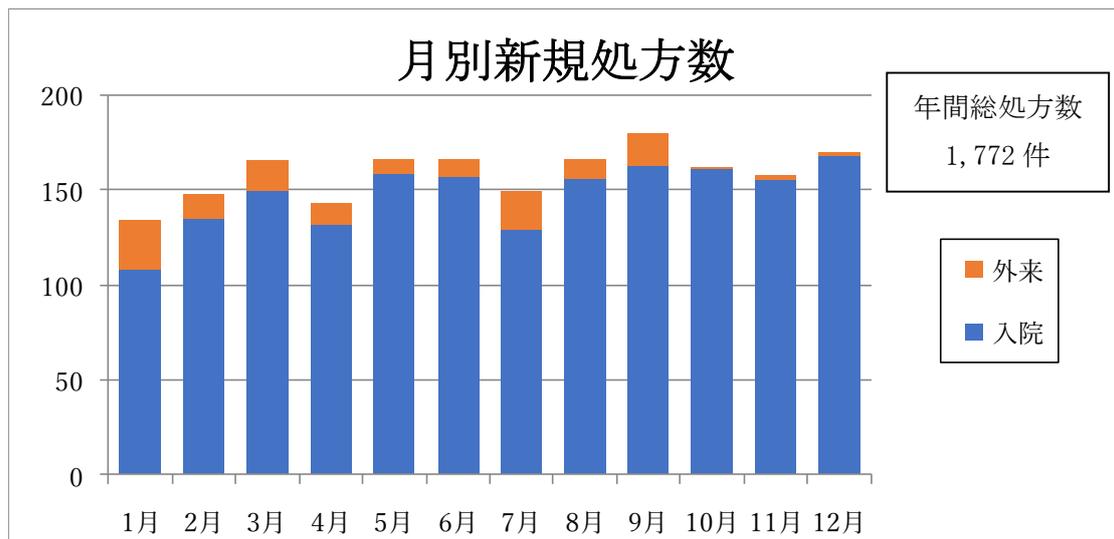


図1 月別新規処方数

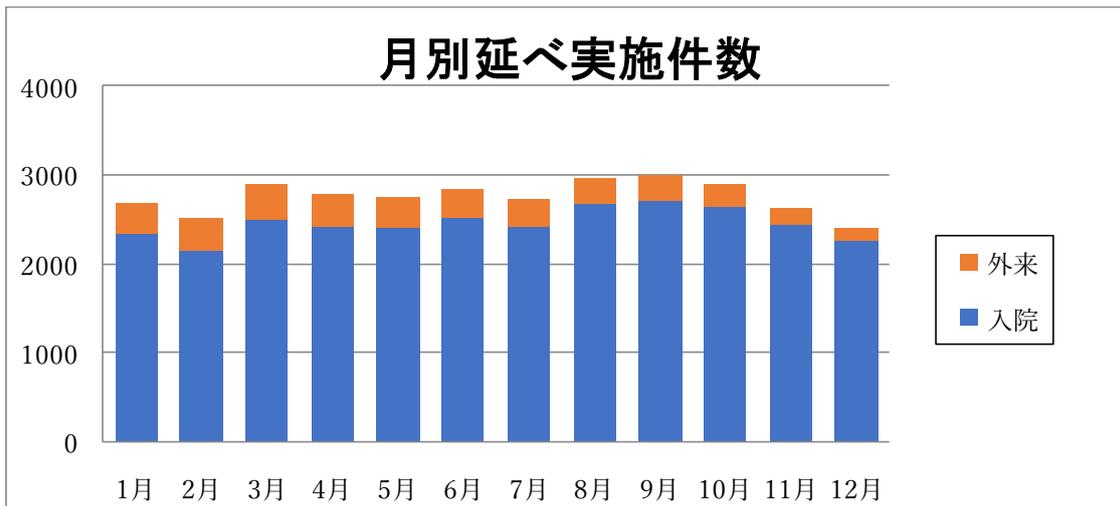


図2 月別延べ実施

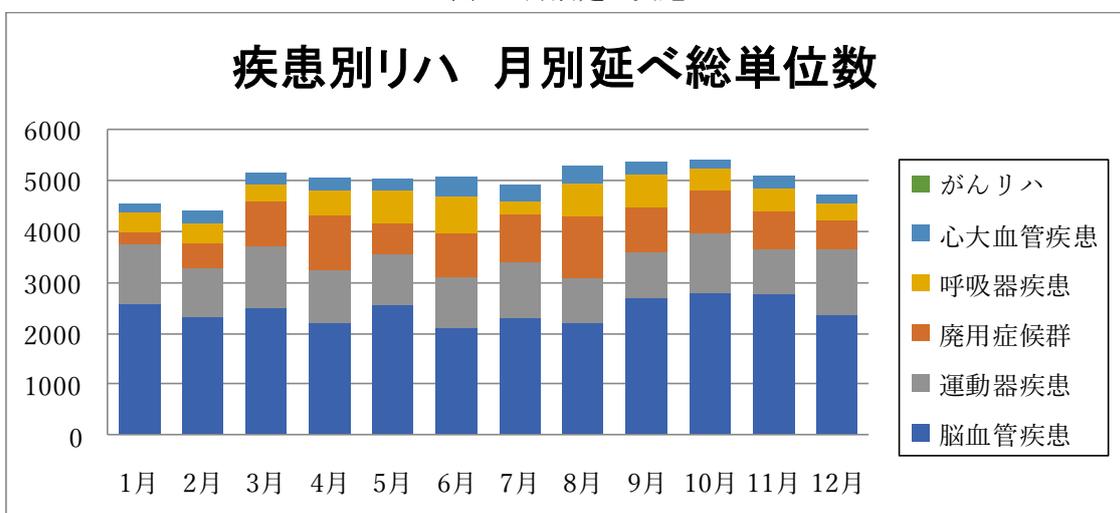


図3 疾患別リハ 月別延べ総単位数

終わりに

2023年も新型コロナウイルスの影響で処方数・実施件数が減少する時期もあった。継続して感染防止対策を実施し、患者さんへの作業療法提供が減少しないようスタッフ一同取り組んだ。

今後も高知県の救急医療を担う当院の作業療法科として、救命・治療と共に患者さんの早期ADLの改善を図るため、人材確保・教育は継続した課題として取り組んでいく。

学術発表・講演会等

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
急性期から退院後に再入院となる要因に関する実態調査	大坪航希、武内周平、光永哲	第32回四国作業療法学会	1月28～29日 徳島
コロナ禍における急性期病院の対策と課題	光永哲、武内周平、山本学	第17回高知県作業療法学会	6月24日 高知
支持的精神療法を用いた急性期作業療法の関わり	山本純、宮崎翔、武内周平、山本学、光永哲	第17回高知県作業療法学会	6月24日 高知
急性期病院におけるノーリフティングケア推進WGの活動	光永哲、武内周平、山本学、前田秀博	第19回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会	8月27日 高知